

◇職員紹介◇

石川 季世子(いしかわ きよこ)



前職は埼玉県内の老健で勤務をしておりました。東京への転居に伴い、武蔵野徳洲苑へ入職しました。老健でも規模が大きい武蔵野徳洲苑は、ご利用者様・スタッフの数が多く、入職して1か月が経ちますが、まだまだ覚えきれないのが現状です。6月から隣接する武蔵野徳洲会病院がオープンしましたが、今後は病院との連携を強め、ご利用者様を医療と福祉の両面でサポートできるよう務めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

◇介護福祉士としての抱負について◇

栗栖 百恵(くりす ももえ)

私は平成24年9月にヘルパー2級の資格を取得し、同年10月からこちらの武蔵野徳洲苑に勤務しております。今年、介護福祉士の国家試験に合格しました。以前、ヘルパーの資格を取得する前は病院で看護助手として働いており、排泄介助や入浴介助などにも携わってきました。私が介護の道を志すきっかけになったのは、看護助手時代に患者様からの「ありがとう」の言葉でした。普段、何気に「ありがとう」とは会話の中で使ってはいますが、その時に言われた「ありがとう」にとっても感激した事を覚えています。人の痛みや不安がわかる、利用者様に寄り添えられるような介護福祉

デイケア
～七夕飾り～



デイケア(通所リハビリテーション)

緑豊かな西東京の地に武蔵野徳洲苑を構え、デイケアも丸三年となり、平日は20名の方が利用され、今年6月からは土曜日にも開所の運びとなりました。リハビリ、入浴、体操もちろんですが、多くの人と出会い、楽しいひと時を過ごすことで皆さんが笑顔を見せて下さることが私たちの力の源となっております。今後とも地域に根差したデイケアを目指して職員一同頑張っていきたいと思っております。

～レクリエーション風景～



武蔵野徳洲苑顧問
石川 一郎 歌謡
ヨ

さたけ散歩(ミニ) 第4回

■施設周辺のご案内 「江戸東京たてもの園」
(武蔵野徳洲苑から徒歩10分)

都内でも有数の桜の名所として知られる東京都小金井市の小金井公園(こがねいこうえん)。公園内には江戸時代から昭和時代初期までの30棟もの建造物が移築・復元・展示される「江戸東京たてもの園」があります。園内は3つのゾーンに分かれており、格式の高い歴史的建造物や武蔵野の農家、下町の町並みが再現されています。次回より園内

制作・編集・印刷・発送
佐竹 弘太郎/武蔵野徳洲苑広報委員会

〒188-0013
東京都西東京市向台町3丁目5番57号
☎042-465-0800 fax042-465-0812
医療法人沖繩徳洲会
介護老人保健施設武蔵野徳洲苑



円居(まどい)

2015年 夏号
医療法人沖繩徳洲会 介護老人保健施設武蔵野徳洲苑 広報誌

介護老人保健施設武蔵野徳洲苑 広報誌のタイトルにある「円居(まどい)」とは、団欒の意。利用者様・ご家族様が集まり、楽しく語り合える施設を目指して名付けました。

「サルンに集まる時などは円居が大抵三つ位に分れて出来た/或る女 有島武郎」



武蔵野徳洲苑 施設長 栗田 明

施設長ご挨拶

梅雨の季節になりました。毎年の統計によると6月1日から7月15日までの間に熱中症で搬送される65歳以上の高齢者は最多です。高齢者は体液が減少しており水分や塩分の摂取も低下していることが多く食事の摂取量も低下しているため、発汗による体温調節も十分でなく容易に脱水に陥りやすくなります。一般に脳が熱いと判断すると、自律神経の体温調節として皮膚の血流量や発汗量が増加します。高齢者は皮膚の温度感受性が鈍化し熱を発散する能力が低下しているため、熱が体内に溜まりやすく深部体温が上昇やすくなります。したがって、喉の渇きが起これなくても早めの暑さ対策が重要です。高齢者はトイレが近くなることを嫌がって水分摂取を控える人が多いので脱水症のリスクが高まっています。脱水症の治療は、具体的には服装を工夫し襟元をゆるめゆったりした服を着るなどの指導と通気をよくして窓をあけて室内に熱気をためないように“すだれ”や“よしず”などの使用を勧めます。エアコンによる室内温度調節、屋外では頭部を暑さから守るため帽子や日傘を利用し日陰を歩くように指導します。さらに、意図的な水分の補給を心がけ、夜更かし、浸酒、食事を抜くなどの不規則な生活を避けて規則正しい生活と十分な食事を摂るように指導し“かくれ脱水”に陥ちらないように飲水を促します。もし皮膚の乾燥や弾力性・緊張度の低下や血圧が低下し頻脈の場合や易疲労感、脱力、食欲低下や立ちくらみなど意識障害や意識の鈍化などを訴える場合は、水分補給が必要になることが多いので速やかに医師に相談するように心がけて下さい。

脱水症の予防

一般成人の場合、食事も含めて少なくとも一日に2.5リットル以上の水分を補給する必要があると言われていたが、高齢者の場合、飲み物だけで補うのは難しく、水分量の多い食事を心がける必要があります。

1. 嚥下機能が正常な方は、食事以外にもお茶の時間を設け、口渇感が無くても定期的な飲水を生活習慣に取り込み、普段から飲水を促します。
2. 夏季にはより脱水症の危険性が高くなるので、周囲の者が注意を払い、水分を補給しやすい環境を作ります。
3. 嚥下機能障害がある方の場合には、摂取するものにとろみを付けたりして、粘り気を増して水分補給を勧めます。

嚥下障害の強い方では、脱水症状の程度に応じて、早めに医療機関において点滴による水分補給が必要となる場合、¹度熱中症の症状²を併発していることが肝心です。



認知症フロアー 行事紹介 6月7日(日)



平成27年6月7日(日)に映画鑑賞会を開催しました。今回の上映は昭和38年公開の『いつでも夢を』で、橋幸夫さんや吉永小百合さんが出演している作品です。施設1階の会議室を映画館風にアレンジし、入場券としてチケットを用意、100インチのスクリーンで利用者様に楽しんで頂きました。

映像を観ながら、映画や昔の街並み、学生、子供の頃のお話をお聞きし、流れてくる歌に合わせて、自然に手拍子や合唱が起こる場面もあり、とても素敵な時間をお過ごしいただきました。



～上映作品～
『いつでも夢を』
主演：橋幸夫



レコードの
累計売上は
なんと260万枚!



接遇研修の紹介 5月27日(水)



接遇力



この研修では老健施設における接遇のあり方を理解することを目的に行いました。

まず3人1組になり、利用者役、介護者役、観察者役の3人にそれぞれが分かれ、現場でもよく遭遇する事例を最初は台本を用意し、その通りに行ってもらい、次に介護者役は台本を見ずに自分なりの対応を行い、利用者役はほとんど台本通りの利用者を演じてもらいました。そこで観察者役を交えて感じたことの話し合いを行いました。この研修で改めて利用者の心の理解を深めたり、接遇のあり方について考えたりするきっかけとなり、現場に活かしていけたらいいなと思いました。

～ご家族様の声～

施設の音楽活動をより一層面白く楽しめるものにして利用者が意欲的に心身のリハビリに取り組みたい支援を実施したい。

発想の起点は、市内の地域包括支援センター長さんとの会話です。「介護施設利用者の一番の楽しみはお食事。「安らいだ雰囲気の中で、美味しくご飯を今日も食べられた」と喜んでもらえるように、各施設では努力をされていますよ」と。ワイフも認知症でお世話になっており、介護士さんの温かい介助ぶりを思い出しながら、利用者が日々生活の中で、「色々楽しめる」ようであって欲しい、素直に頷きました。さらに高齢者、認知症患者と云えども、喜びを伴う生活の中にこそ、明日への生きる意欲も自然に湧いて来るのではないのでしょうかとも……。施設の安心・安全には何時も関心を向けていますが、より「大切なことは何か」を気づかせてもらいました。つまり「利用者の気持ちを大切にしながら、日々生きる楽しさと喜びを実感できる生活の実現を目指すこと」ですと……。このように、平素から介護施設の在り方を思案されている様子に感動させられました。高齢になり、家族から離れて施設での生活の場では、「生きる喜びを実感できる機会」は、安心安全を保つ上から制約が幾つもあるのでしょうかから、当然のことながら少ないでしょう。でも、利用者から、生きる意欲を引き出して欲しいものだと、私なりに思案しておりました。丁度その頃、ある施設で月例の歌唱活動を参観した折、歌唱担当の介護士さんの美しい声に合わせて歌唱が始まりました。「声を出して歌う人」、かすかに口を動かし、声は出ないが一緒に歌っている人、歌う行為は見られないが、楽しんでいる表情の人、手拍子を取る人、リズムに合わせて体を揺る人、無表情で何もしていない人、など様々な状況を目の当たりにしました。歌声こそ、か細いが、殆どの方は歌唱の時間を楽しんでおられた様子に、嬉しさと安堵感を持ちました。それと同時に、このような歌唱活動をもっと実感をもって楽しめるものにしてあげられることができないか、とも思いました。とっさに思いついたことは、「参加者の皆さんが、自分にできる楽器を打ち鳴らして、メロディーに明快なリズム音を付けて「楽しく歌えるような歌唱会にしてあげたい。」私にできることで歌唱担当の職員さんを支援してあげたいという発想が自然と湧き上がってきたのでした。実は、私は元教員。音楽指導の経験を活かして、利用者一人ひとりに合わせた歌唱活動を計画し実施して、「楽しみを充実させてあげれば、生きる意欲も高まり、リハビリの効果も自ずから向上する。」のではと考えた次第です。

高齢者・認知症患者と云ってもこれまでの様々な人生経験の中で身につけてきた、「音楽的教養やリズム感、音楽的表現力など全て」が、忘却の彼方に去ったわけではありません。音楽に関わる大切な能力や機能は、未だ沢山残っている筈です。それだけ6月1日(土)継続フロアーです。」

リハビリ、トレーニング時理論見、効果的専門職の皆さんと研究し合って利用者の喜びで頑張りまは演奏は50年ぶりでした。

五線譜上の音符を読み取り、一音、一音丁寧に鍵盤を叩き演奏されておりました。練習の成果が発揮された瞬間です。



武蔵野徳洲会病院 平成27年6月1日開院

平成27年6月1日、徳洲会グループの新病院である武蔵野徳洲会病院が、武蔵野徳洲苑の隣にオープンしました。

病床数 : 210床 (一般160床・療養病棟50床)
構造 : 地下1階/地上6階/ヘリポート
診療科目 : 内科・循環器内科・消化器内科・血液内科・肝臓内科・腎臓内科・神経内科・婦人科・小児科・外科・小児外科・消化器外科・呼吸器外科・脳神経外科・心臓血管外科・泌尿器科・整形外科・形成外科・放射線科・リハビリテーション科・救急科



お問い合わせ ☎042-465-0700

URL <http://www.musashino-hp.jp/>

栗田施設長勉強会

「高齢者の救急疾患について」

7/7(火)に栗田施設長による職員への勉強会が実施されました。中枢神経疾患、脳・心臓血管の障害などによる急変など、ご利用者様にとって入所生活の中で生命の危機が突然訪れることがあります。高齢者ケアにおいて日頃どのような点に注意したらよいかを学び、今後の業務に活かしてまいります。

徳洲新聞 毎週月曜日発行

さたけ散歩

東京都内にある江戸～現代の史跡や名所を散策。これを読めば東京通になれる。毎週月曜日、施設受付・テ